

Oracle® Enterprise Manager

System Monitoring Plug-in インストール・ガイド for Oracle TimesTen In-Memory Database

リリース 11.2.1

部品番号 : B56045-01

2009 年 11 月

このマニュアルは、2007 年 11 月に初めて書かれ公開されました。それ以降、内容に変更はありません。

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in によって、Oracle Enterprise Manager Grid Control が拡張され、TimesTen データベースの監視がサポートされるようになります。

このマニュアルでは、Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をインストールする前に確認する次の情報について説明します。

- サポートされるリリース
- インストールの前提条件
- Oracle Enterprise Manager での資格証明の設定
- Windows での「バッチ ジョブとしてログオン」権限の付与

また、プラグインのインストール、ターゲット・インスタンス（使用しているデータベース）に関するデータの表示およびプラグインのアンインストールに必要な次の手順についても説明します。

- Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のインストール
- TimesTen データベースのパフォーマンス・メトリックの表示
- TimesTen データベースのレポートの表示
- Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のアンインストール

さらに、「Oracle TimesTen In-Memory Database のドキュメント」の参照先についての情報も示します。

1 サポートされるリリース

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in では、Oracle TimesTen In-Memory Database リリース 7.0.3 以上がサポートされています。

また、次に示す Oracle Enterprise Manager エージェントもサポートされています。

- リリース 10.2.0.4
- リリース 10.2.0.3
- リリース 10.2.0.2
- リリース 10.2.0.1

注意： 推奨されている Oracle Enterprise Manager エージェントは、リリース 10.2.0.4 です。このプラグインでは、Oracle Enterprise Manager DBControl はサポートされていません。

2 インストールの前提条件

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をインストールする前に、次の操作を実行します。

- リリース 10.2.0.1 以上の Oracle Enterprise Manager エージェントをインストールします。エージェントで Oracle Enterprise Manager Server と正常に通信できることおよびデータをアップロードできることを確認します。たとえば、エージェントの「可用性」が「稼働中」である必要があります。また、「最新ロード時間」に最新の日付 / タイムスタンプが表示され、「最新ロード時間」が定期的に更新される必要があります。
- Oracle TimesTen In-Memory Database リリース 7.0.3 以上をインストールします。

注意： Oracle Enterprise Manager エージェントは、Oracle TimesTen In-Memory Database と同じマシンに存在する必要があります。

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をインストールする場合は、次の情報が必要です。

- TimesTen インスタンスの名前。
- DSN。
- TimesTen インスタンスでアクセス制御を有効にしている場合は、次の情報が必要です。
 - TimesTen のユーザー名
 - TimesTen ユーザー名のパスワード

注意： インスタンスおよび DSN で指定された TimesTen データベースがロードされていることを確認してください。

TimesTen インスタンスに関する情報を参照するには、ttStatus ユーティリティを実行してください。

3 Oracle Enterprise Manager での資格証明の設定

Oracle Enterprise Manager で、エージェントを実行する場合のユーザーの資格証明を設定する必要があります。デフォルトの資格証明（すべてのエージェントで共通の資格証明）を設定するか、またはエージェントごとに異なる資格証明（ターゲットの資格証明）を設定できます。ターゲットの資格証明は、デフォルトの資格証明より優先されます。

3.1 資格証明を設定する手順

1. Oracle Enterprise Manager のホームページの右上にある「プリファレンス」を選択します。
2. 「プリファレンス」の左上にある「優先資格証明」を選択します。
3. 対象となるエージェントの行の「資格証明の設定」列内のアイコンをクリックします。
「エージェントの優先資格証明」ページが表示されます。エージェントのオペレーティング・システム・ユーザー名およびパスワードを入力すると、デフォルトおよびターゲットの資格証明を入力できるようになります。
4. 「ホスト・ユーザー名」列に、ユーザー名を入力します。
5. 「ホスト・パスワード」列に、パスワードを入力します。
6. 「適用」をクリックします。

4 Windows での「バッチ ジョブとしてログオン」権限の付与

Oracle Enterprise Manager Grid Control でホストのユーザー名およびホストのパスワードを設定して、エージェントの資格証明を設定する必要があります。Windows の場合は、ホストのユーザー名に「バッチ ジョブとしてログオン」権限を付与する必要があります。

資格証明を設定する手順の詳細は、2 ページの「[Oracle Enterprise Manager での資格証明の設定](#)」を参照してください。

4.1 Windows で「バッチ ジョブとしてログオン」権限を付与する手順

1. コントロール・パネルをクラシック表示に設定します。
2. デスクトップから、「スタート」→「コントロールパネル」→「管理ツール」を選択します。
3. 「ローカルセキュリティ ポリシー」をダブルクリックします。
4. 「ローカル ポリシー」を選択します。
5. 「ユーザー権利の割り当て」を選択します。
6. 「バッチ ジョブとしてログオン」をダブルクリックします。
「バッチ ジョブとしてログオン」のプロパティ・ダイアログ・ボックスが表示されます。
7. 「ユーザーまたはグループの追加」をクリックします。
「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。ホストのユーザー名を入力できます。
8. 「選択するオブジェクト名を入力してください」に、ホストのユーザー名を入力します。
9. 「OK」をクリックします。
10. 「バッチ ジョブとしてログオン」のプロパティ・ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。

5 Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のインストール

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をインストールするには、次の操作を実行します。

- プラグインのインポート
- プラグインのデプロイ
- エージェントでのプラグインのターゲット・インスタンスの作成

5.1 Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をインポートする手順

インポート・プロセスを開始するには、まず、Oracle Technology Network (OTN) から Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をダウンロードし、ブラウザを実行しているマシンにプラグイン・ファイル (TimesTen_plugin.jar) を保存する必要があります。

1. Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をダウンロードし、ファイルを保存します。
ファイルが保存されたことを確認します。
これで、ブラウザから Oracle Enterprise Manager Grid Control にログインできます。
2. Oracle Enterprise Manager Grid Control にログインします。
Oracle Enterprise Manager Grid Control の「ログイン」ページが表示されます。

3. 「ユーザー名」および「パスワード」列に、スーパー管理者のユーザー名およびパスワードを入力します。
4. [Return] キーを押すか、または「ログイン」をクリックします。
Oracle Enterprise Manager Grid Control のホームページが表示されます。
5. Oracle Enterprise Manager Grid Control のホームページの右上にある「設定」を選択します。
Oracle Enterprise Manager の「設定」ページが表示されます。
6. 「設定の概要」パネル・セクションのページの左側にある「管理プラグイン」を選択します。
「管理プラグイン」ページが表示されます。
7. 「管理プラグイン」ページの中央にある「インポート」を選択します。
「管理プラグインのインポート」ページが表示されます。
8. 「参照」をクリックして、TimesTen_Plugin アーカイブ・ファイルを検索します。
TimesTen_Plugin アーカイブ・ファイルは、ダウンロードした .jar ファイルです。このファイルは、ブラウザが存在するファイル・システムにあります。たとえば、ブラウザが Windows プラットフォームに存在する場合、このファイルは、デスクトップ上にあるか、またはドライブ上のいずれかのフォルダにあります。
9. このファイルを選択します。
「管理プラグイン・アーカイブ」というテキスト・フィールドに、TimesTen プラグイン jar ファイルのパスおよびファイル名が表示されます。
10. 「リスト・アーカイブ」をクリックします。
「管理プラグインのインポート」ページの下部に「アーカイブ用の管理プラグイン: TimesTen_Plugin.jar」表が表示されます。名前列には、timesten_imdb が表示されています。timesten_imdb の左側の「選択」列には、「選択」ボックスが表示されています。
11. timesten_imdb の左側にある「選択」ボックスを選択します。
「選択」ボックスにチェックマークが表示されます。
これで、TimesTen 管理プラグインをインポートできます。「アーカイブ用の管理プラグイン: TimesTen_Plugin.jar」表の右下に「OK」ボタンがあることを確認します。
12. 「OK」をクリックします。
TimesTen プラグインのインポート・プロセスが開始されます。
「設定」ページが表示されます。「1つの管理プラグインが正常にインポートされました。」という情報メッセージが表示されています。

これで、1つ以上のエージェントに TimesTen プラグインをデプロイできるようになりました。

5.2 Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をデプロイする手順

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in は、1つ以上のエージェントにデプロイする必要があります。プラグインを正常にデプロイすると、エージェントによって、プラグインの存在が認識されます。その後で、TimesTen データベースをエージェントのターゲットの1つとして構成します。このエージェントによって、ターゲットの監視プロセスが開始されます。

プラグインをデプロイするには、Oracle Enterprise Manager の「設定」ページが表示されている必要があります。

このページの下部に、プラグインに関する情報が示されている表があります。「選択」、「名前」、「バージョン」、「デプロイ済エージェント」、「説明」、「デプロイ要件」、「デプロイ」、「アンデプロイ」という列名が表示されています。「名前」列には、timesten_imdb が表示されています。「デプロイ済エージェント」列には、0 が表示されています（1つ以上のエージェントを以

前にデプロイしていない場合)。「説明」列には、「Management Plug-in for Oracle TimesTen In-Memory Database」と表示されています。「選択」列には、正方形のボックスが表示されています。

1. timesten_imdb の左側にある「**選択**」ボックスを選択します。

「選択」ボックスにチェックマークが表示されます。Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in に対応する行の「デプロイ」列に、デプロイ・アイコンが表示されます。このアイコンは、プラグインと同じ行にあります。

2. Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in に対応する行の「デプロイ」列内の**デプロイ**・アイコンをクリックします。

「管理プラグインのデプロイ:ターゲットの選択」ページが表示されます。

3. 「**エージェントの追加**」をクリックします。

ダイアログ・ボックスが表示されます。ここで、既知のエージェントを検索できます。

4. 「**実行**」をクリックします。

エージェントの選択リストが表示されます。

5. プラグインのデプロイ先となる各エージェントの「**選択**」ボックスを選択します。

選択した各エージェントの「選択」ボックスにチェックマークが表示されます。選択メニューの右側に「選択」ボタンがあることを確認します。

6. 「**選択**」をクリックします。

デプロイメント・エージェントの名前が表示されます。「ステップ 1/3」というテキストの右側に「次」ボタンがあることを確認します。

7. 「**次**」をクリックします。

「管理プラグインのデプロイ:確認」ページが表示されます。このページでは、デプロイメント・プロセスについて簡単に説明されています。「ステップ 3/3」というテキストの右側に「終了」ボタンがあることを確認します。

8. 「**終了**」をクリックします。

「管理プラグインのデプロイ中」ウィンドウが表示されます。「一部デプロイ済」と表示されています。このウィンドウが更新されるまで待機します。

「設定」ページが表示されます。「デプロイ操作が完了しました。」という情報メッセージが表示されます。

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in に対応する行の「デプロイ済エージェント」列には、デプロイされたエージェントの数が表示されます。

これで、ターゲット・インスタンスを作成できるようになりました。

5.3 ターゲット・インスタンスを作成する手順

1つ以上のエージェントに Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のターゲット・インスタンスを作成します。ターゲット・インスタンスは、一意の DSN ごとに作成できます。

1. 「設定」で「**エージェント**」を選択します。

「エージェント」ページが表示されます。エージェント表が表示されます。「名前」列には、プラグインがデプロイされたエージェントが表示されます。

2. 「名前」列でエージェント名をクリックします。

そのエージェント名のページが表示されます。これで、TimesTen In-Memory Database Plug-in を選択できるようになりました。

3. 「**追加**」とラベル付けされた選択リストを開き、「**TimesTen In-Memory Database**」を選択します。

4. 「実行」をクリックします。

「TimesTen In-Memory Database の追加」ページが表示されます。ここで、プロパティの値を入力できます。

「* Name」列で、ターゲット・インスタンスの名前を作成します。わかりやすい識別子で名前を定義します。(たとえば、*hostname_instance_DSN*など)。名前の文字列には、文字、数字および特殊文字を含めることができます。

5. 「* Name」列に、ターゲット・インスタンスの名前を入力します。

これで、TimesTen インスタンスの名前を入力できるようになります。インスタンスの名前がわからない場合は、*ttStatus* ユーティリティを使用します。

6. 「TimesTen instance name」列に、TimesTen インスタンスの名前を入力します。

これで、DSN を入力できるようになります。DSN は、*sys.odbc.ini* ファイル (Linux/UNIX プラットフォームの場合) または ODBC Data Source Administrator (Windows プラットフォームの場合) にあります。

7. 「Data Source Name」列に、DSN を入力します。

8. アクセス制御を有効にしている場合は、「TimesTen user name」列に、TimesTen のユーザー名を入力します。

9. アクセス制御を有効にしている場合は、「TimesTen password」列に、TimesTen のパスワードを入力します。

これで、接続のテスト、およびターゲット・インスタンスが正常にデプロイされ、適切に構成されたことの確認を行うことができます。

10. 「テスト接続」をクリックします。

「テスト接続」という情報メッセージが表示されます。「テスト接続」というメッセージが表示されない場合は、インスタンス名および DSN が正しいこと、および DSN の TimesTen データベースがロードされていることを確認します。アクセス制御を有効にしている場合は、ユーザー名およびパスワードが正しいことを確認します。

11. 「OK」をクリックします。

これで、作成したターゲット・インスタンスについての情報を表示できるようになりました。

6 TimesTen データベースのパフォーマンス・メトリックの表示

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in では、ターゲットの TimesTen データベースに関する次の情報とパフォーマンス・メトリックが収集および表示されます。

- データベースの情報
- インスタンスの情報
- パフォーマンス・データ
- パフォーマンスの評価
- レスポンス

メトリック情報は、Oracle Enterprise Manager の「すべてのメトリック」ページに示されます。

6.1 「すべてのメトリック」ページにナビゲートする手順

1. Oracle Enterprise Manager のホームページで「ターゲット」を選択します。
「ホスト」ページが表示されます。
2. ホスト名を選択します。
ページの上部にホストの名前が表示されます。
3. 「ターゲット」を選択します。
名前列にはターゲット・インスタンスの名前が表示され、同じ行のタイプ列には「TimesTen In-Memory Database」と表示されます。
4. 名前列にあるターゲット・インスタンスの名前をクリックします。
「TimesTen In-Memory Database」ページが表示され、使用しているデータベースに関する情報が示されます。ページ下部には、いくつかのメニュー・オプションが表示されます。
5. 「すべてのメトリック」を選択します。
Oracle Enterprise Manager の「すべてのメトリック」ページが表示され、ページ上部にターゲット・インスタンスの名前が示されます。データベース情報、インスタンス情報、パフォーマンス・データ、パフォーマンスの評価およびレスポンスのためのメニュー・オプションが表示されます。これで、これらの情報を表示できるようになりました。

6.1.1 データベース情報を表示する手順

使用しているデータベースのデータベース情報を表示するには、Oracle Enterprise Manager の「メトリック」ページで「データベース情報」を選択します。

「データベース情報」ページが表示され、使用しているデータベースに関する情報が示されます。

データベースの属性	説明
RAM residence policy	RAM の駐在ポリシー（「always」、「manual」、「inUse」）
Replication policy	レプリケーション・ポリシー（「always」、「manual」、「norestart」）
Replication agent running	実行中の場合は 1、実行していない場合は 0
Cache agent policy	キャッシュ・エージェント・ポリシー（「always」、「manual」）
Cache agent running	実行中の場合は 1、実行していない場合は 0
Time of first connection to database	データベースへの初期接続時間
Allocated size of permanent data partition - KB	永続データ・パーティションの割当てサイズ (KB)
Allocated size of temporary data partition - KB	一時データ・パーティションの割当てサイズ (KB)

データベースの設定および属性の詳細を参照するには、ttStatus ユーティリティを実行してください。ttStatus ユーティリティについては、『Oracle TimesTen In-Memory Database API リファレンス・ガイド』を参照してください。

6.1.2 インスタンス情報を表示する手順

データベース・インスタンスに関する情報を表示するには、Oracle Enterprise Manager の「メトリック」ページで「インスタンス情報」を選択します。

「インスタンス情報」ページが表示され、TimesTen インスタンスに関する情報が示されます。

名前	説明
Instance name	TimesTen インスタンスの名前
Daemon port number	デーモンのポート番号
TimesTen version number	5 桁のリリース番号
Platform type	プラットフォームのタイプ (Linux/86_32 など)
TimesTen server running	実行中の場合は 1、実行していない場合は 0
TimesTen server PID	TimesTen サーバー・プロセス ID
TimesTen server port number	サーバーのポート番号
TimesTen web server running	実行中の場合は 1、実行していない場合は 0
TimesTen web server PID	TimesTen Web サーバー・プロセス ID
TimesTen web server port number	Web サーバーのポート番号

TimesTen インスタンスに関する情報を参照するには、`ttStatus` ユーティリティを実行してください。ttStatus ユーティリティについては、『Oracle TimesTen In-Memory Database API リファレンス・ガイド』を参照してください。

6.1.3 パフォーマンス・データを表示する手順

使用しているデータベースのパフォーマンス・データを表示するには、Oracle Enterprise Manager の「メトリック」ページで「パフォーマンス・データ」を選択します。

「パフォーマンス・データ」ページが表示され、各パフォーマンス・メトリックの名前とそのメトリックの値が示されます。SYS.MONITOR システム表については、『Oracle TimesTen In-Memory Database SQL リファレンス・ガイド』を参照してください。

「パフォーマンス・データ」ページには、次の名前と値が示されます。

メトリック	説明
MEMORY - Size of permanent partition currently in use - KB	永続データ・パーティションで現在使用されている部分のサイズ (KB)
MEMORY - Highest amount of permanent partition in use - KB	データベースへの初期接続以降に使用されている、永続データ・パーティション・メモリーの最大容量 (KB)
MEMORY - Percent of permanent space in use	現在使用されている永続パーティション領域の割合
MEMORY - Size of temporary partition currently in use - KB	一時データ・パーティションで現在使用されている部分のサイズ (KB)
MEMORY - Highest amount of temporary partition in use - KB	データベースへの初期接続以降に使用されている、一時データ・パーティション・メモリーの最大容量 (KB)
MEMORY - Percent of temporary space in use	使用されている一時領域の割合
XACT - Number of transactions committed	コミットされた永続トランザクションおよび非永続トランザクションの数
LOCK - Number of deadlocks	デッドロックの回数
LOCK - Number of lock requests denied due to timeouts	タイムアウトが原因で拒否されたロック・リクエストの数
CHKPT - Number of checkpoints completed	実行されたチェックポイントの回数

メトリック	説明
CHKPT - Bytes written in most recent checkpoint	最新のチェックポイントに書き込まれたバイトの数
LOG - Number of log reads not from log buffer	インメモリー・ログ・バッファからログを読み取ることができなかった回数
LOG - Number of log buffer writes to file system	TimesTen がインメモリー・ログ・バッファの内容をファイル・システムに書き込んだ回数。この列には、データがディスクにフラッシュされた回数は含まれません。ファイル・システムのファイル・バッファへの書込みのみがカウントされます。
LOG - Log buffer waits	ログ・バッファが一杯であったため、ログ・レコードをログ・バッファに挿入しようとしている間にスレッドが遅延した回数。通常、この値が増大している場合は、ログ・バッファが小さすぎることを示しています。
LOG - Last log file number	最後のログ・ファイルの番号
REP - Number of xacts replicated from this database	1 つ以上のピア・データベースにレプリケートされている、ローカル・ストアで生成されたレプリケーション・トランザクションの数
REP - Last log file number held by replication	レプリケーションによって保持された最後のログ・ファイルの番号
WORKLOAD - Total number of connections	TimesTen データベースでのすべてのアクティブな接続の合計
WORKLOAD - System connections	サブデーモン、レプリケーション・エージェントおよびキャッシュ・エージェントのアクティブな接続の合計
WORKLOAD - Client/Server connections	TimesTen データベースでのアクティブなクライアント / サーバー接続の数
WORKLOAD- Direct linked connections	TimesTen データベースでの直接リンク接続の数
WORKLOAD - Number of commands prepared	準備（コンパイル）されたコマンドの数
WORKLOAD - Number of commands re-prepared	再準備されたコマンドの数

6.1.4 パフォーマンスの評価を表示する手順

使用しているデータベースのパフォーマンスの評価を表示するには、Oracle Enterprise Manager の「メトリック」ページで「パフォーマンスの評価」を選択します。

「パフォーマンスの評価」ページが表示され、各パフォーマンス・メトリックの名前とそのメトリックの値が示されます。

パフォーマンスの評価は、比率（1 分間に X 回など）で表されます。これらの比率は瞬間比率とみなされます。値が、過去 1 分間での比率または 1 分当たりの比率（最新の収集間隔を 1 分以外の値に変更した場合）になるためです。

「パフォーマンスの評価」ページには、次の名前と値が示されます。

メトリック	説明
XACT - Transactions committed per minute	1 分間にコミットされたトランザクションの数
XACT - Transactions durably committed per minute	1 分間にコミットされた永続トランザクションの数

メトリック	説明
XACT - Transactions rolled back per minute	1 分間にロールバックされたトランザクションの数
LOCK - Deadlocks per minute	1 分間に発生したデッドロックの回数
LOCK - Lock timeouts per minute	1 分間に発生したロック・タイムアウトの回数
LOCK - Immediate lock grants per minute	1 分間に取得された非ブロッキング・ロックの数
LOCK - Lock grants after wait per minute	1 分間に取得されたブロッキング・ロックの数
LOG - Log buffer waits per minute	ログ・バッファが一杯であったため、1 分間にスレッドが待機する必要があった回数
LOG - Log reads from file system per minute	1 分間にインメモリー・ログ・バッファからログを読み取ることができなかった回数
LOG - Log flushes to file system per minute	1 分間にログ・バッファがファイル・システムに書き込まれた回数
LOG - Log bytes to disk per minute in MB	1 分間にディスクに書き込まれたログの量 (MB)
REP - Transactions replicated per minute	1 分間にピアにレプリケートされたトランザクションの数
WORKLOAD - Connects per minute	1 分間でのデータベースへの接続数
WORKLOAD - Disconnects per minute	1 分間でのデータベースからの切断数
WORKLOAD - Number of commands prepared per minute	1 分間に準備 (コンパイル) された SQL コマンドの数
WORKLOAD - Number of commands re-prepared per minute	1 分間に再準備 (再コンパイル) された SQL コマンドの数
WORKLOAD - Number of queries per minute	1 分間に行われた問合せの数

6.1.5 レスpons情報を表示する手順

レスポンス情報を表示するには、Oracle Enterprise Manager の「メトリック」ページで「レスポンス」を選択します。

「レスポンス」ページが表示され、使用しているデータベースに関する次のレスポンス情報が示されます。

- ステータス (稼働または停止)
- レスポンス時間 (秒)
 - プラグインで TimesTen SYS.MONITOR 表の問合せにかかった時間

7 TimesTen データベースのレポートの表示

レポートは、Oracle Enterprise Manager リポジトリに収集および格納されているメトリック情報から生成されます。

7.1 レポートを表示する手順

1. Oracle Enterprise Manager のホームページで「ターゲット」を選択します。
「ホスト」ページが表示されます。
2. ホスト名を選択します。
ページの上部にホストの名前が表示されます。

3. 「ターゲット」を選択します。
 名前列にはターゲット・インスタンスの名前が表示され、同じ行のタイプ列には「TimesTen In-Memory Database」と表示されます。
4. 名前列にあるターゲット・インスタンスの名前をクリックします。
 「TimesTen In-Memory Database」ページが表示され、ページ上部にターゲット・インスタンスの名前が表示されます。ターゲット・インスタンスの名前の下に「Reports」があることを確認します。
5. 「Reports」を選択します。
 「TimesTen IMDB Activity Reports」が表示されます。
 次の項目を含むレポートが1つのグループになっています。
 - **Log Activity:** ログ・バッファの待機回数 / 分、ログの書き込み回数 / 分
 - **Connection Activity:** 接続回数 / 分、切断回数 / 分
 - **Transaction Activity:** 読取り回数 / 分、コミット回数 / 分、ロールバック回数 / 分、永続コミット回数 / 分
 - **Checkpoint Activity:** 最後のチェックポイントに書き込まれたバイトの数、ログ・バッファの待機回数
 - **Space Usage:** 使用されている永続領域の割合、使用されている一時領域の割合

8 Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のアンインストール

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をアンインストールするには、次の操作を実行します。

- プラグインのすべてのターゲット・インスタンスの削除
- プラグインのアンデプロイ
- プラグインの削除

プラグインをアンデプロイする前に、そのプラグインのすべてのターゲット・インスタンスを削除する必要があります。たとえば、3つのデータベース（3つのターゲット・インスタンス）があり、2つのデータベースが1つのエージェントにデプロイされ、3つ目のデータベースが2つ目のエージェントにデプロイされているとします。この場合は、次の手順を実行する必要があります。

- エージェント1のデータベース1（ターゲット・インスタンス）を削除します。
- エージェント1のデータベース2（2つ目のターゲット・インスタンス）を削除します。
- エージェント2のデータベース3（3つ目のターゲット・インスタンス）を削除します。

この後、プラグインをアンデプロイし、Oracle Enterprise Manager Grid Control から削除します。

8.1 Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のターゲット・インスタンスを削除する手順

削除するプラグインのターゲット・インスタンスごとに、次の手順を実行します。

1. ホームページのナビゲーション・バーで「ターゲット」を選択します。
 「ホスト」ページが表示されます。
2. 「ホスト」ページの「ターゲット」の下にある「すべてのターゲット」を選択します。

「すべてのターゲット」ページが表示され、Oracle Enterprise Manager Grid Control のすべてのターゲット（ホスト、エージェント、データベースなど）のリストが示されます。「名前」列には、ターゲット・インスタンスの名前が表示されています。同じ行の「タイプ」列には、「TimesTen In-Memory Database」と表示されています。また、同じ行の「選択」列には、白い丸が表示されています。

3. 「選択」の丸を選択します。

選択したターゲット・インスタンスの名前が表示されます。

4. 選択リストの上部または下部のいずれかにある「削除」をクリックします。

「target_instance_name (TimesTen In-Memory Database) の削除を選択しました。続行しますか。」という警告メッセージが表示されます。

5. 警告メッセージの右側にある「はい」をクリックします。

「Target_instance_name (TimesTen In-Memory Database) が削除されました。」という確認メッセージが表示されます。

ターゲット・インスタンスは削除されています。手順 1～5 を繰り返して、Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のターゲット・インスタンスをさらに削除します。Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のすべてのターゲット・インスタンスを削除したら、Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をアンデプロイして、Oracle Enterprise Manager Grid Control から削除できます。

8.2 Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をアンデプロイする手順

エージェントから Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in をアンデプロイした後で、Oracle Enterprise Manager Grid Control から Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in を削除します。

プラグインのすべてのターゲット・インスタンスが削除されていることを確認します。ターゲット・インスタンスを削除する手順の詳細は、11 ページの「[Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のターゲット・インスタンスを削除する手順](#)」を参照してください。

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in のアンデプロイは、「設定」メニューから行います。

1. ページ上部にあるナビゲーション・バーから「設定」を選択します。

Oracle Enterprise Manager の「設定」ページが表示されます。

2. 「設定の概要」パネル・セクションのページの左側にある「管理プラグイン」を選択します。

「管理プラグイン」ページが表示されます。

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in に関する情報が示されている表があります。「選択」、「名前」、「バージョン」、「デプロイ済エージェント」、「説明」、「デプロイ要件」、「デプロイ」、「アンデプロイ」という列名が表示されています。「名前」列には、timesten_imdb が表示されています。「デプロイ済エージェント」列には、そのプラグイン用にデプロイされたエージェントの数が表示されています。「説明」列には、「Management Plug-in for Oracle TimesTen In-Memory Database」と表示されています。「選択」列には、正方形のボックスが表示されています。

3. timesten_imdb の左側にある「選択」ボックスを選択します。

「選択」ボックスにチェックマークが表示されます。Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in に対応する行の「アンデプロイ」列に、アンデプロイ・アイコンが表示されます。このアイコンは、プラグインと同じ行にあります。

4. Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in に対応する行の「アンデプロイ」列内のアンデプロイ・アイコンをクリックします。

「管理プラグインのアンデプロイ」ページが表示されます。選択表が表示されます。表の各行には、デプロイされたエージェントの名前が表示されています。デプロイされたエージェントの名前と同じ行に「選択」列があります。「選択」には、正方形のボックスが表示されています。

5. デプロイされたエージェントの左側にある「**選択**」ボックスを選択します。

「選択」ボックスにチェックマークが表示されます。

6. Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in 用にデプロイしたすべてのエージェントを選択するまで、手順 5 を繰り返します。

デプロイしたエージェントの「選択」ボックスにチェックマークが表示されます。

7. 表の右上または右下にある「**OK**」をクリックします。

「管理プラグインのアンデプロイ中」ウィンドウが表示されます。「一部アンデプロイ済」と表示されています。このウィンドウが更新されるまで待機します。

「設定」ページが表示されます。「アンデプロイ操作が完了しました。」という情報メッセージが表示されます。

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in に対応する行の「デプロイ済エージェント」列には、数値 0 が表示されます。

エージェントは Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in からアンデプロイされました。これで、Oracle Enterprise Manager Grid Control からプラグインを削除できます。

8.3 Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in を削除する手順

プラグインを削除する場合は、Oracle Enterprise Manager Grid Control からプラグインを削除します。

1. 「管理プラグイン」で、プラグイン `timesten_imdb` に対応する行の「選択」列にある「**選択**」ボックスをクリックします。

2. 「管理プラグイン」表の列ヘッダーの上にある「**削除**」をクリックします。

「次の管理プラグインを削除しますか。TimesTen_imdb:1.1」という確認メッセージが表示されます。

3. 「**OK**」をクリックします。

「1つの管理プラグインが正常に削除されました。」という確認メッセージが表示されます。

Oracle TimesTen In-Memory Database Plug-in は正常に削除されました。

9 Oracle TimesTen In-Memory Database のドキュメント

TimesTen のドキュメントは、Oracle Technology Network Japan (OTN-J) で入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

`ttStatus`、`ttIsql` などの TimesTen ユーティリティについては、『Oracle TimesTen In-Memory Database API リファレンス・ガイド』を参照してください。

TimesTen のインストールについては、『Oracle TimesTen In-Memory Database インストレーション・ガイド』を参照してください。

`SYS.MONITOR` システム表については、『Oracle TimesTen In-Memory Database SQL リファレンス・ガイド』を参照してください。

10 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティについての評価や言及は行っておりません。

聴覚に障害があるお客様の Oracle サポート・サービスへのアクセス

Oracle サポート・サービスに連絡するには、テレコミュニケーション・リレー・サービス (TRS) を使用して Oracle サポート (+1-800-223-1711) までお電話ください。Oracle サポート・サービスの技術者が、Oracle サービス・リクエストのプロセスに従って、技術的な問題を処理し、お客様へのサポートを提供します。TRS の詳細は、<http://www.fcc.gov/cgb/consumerfacts/trs.html> を参照してください。電話番号の一覧は、<http://www.fcc.gov/cgb/dro/trsphonebk.html> を参照してください。

11 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

Oracle Enterprise Manager System Monitoring Plug-in インストール・ガイド for Oracle TimesTen In-Memory Database, リリース 11.2.1
部品番号 : B56045-01

Oracle Enterprise Manager System Monitoring Plug-in for Oracle TimesTen In-Memory Database Installation Guide Release 11.2.1
原本部品番号 : E13081-02

Copyright © 2007, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

制限付権利の説明

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

